

寛次郎 散策のみち(狛田駅・下狛田から)

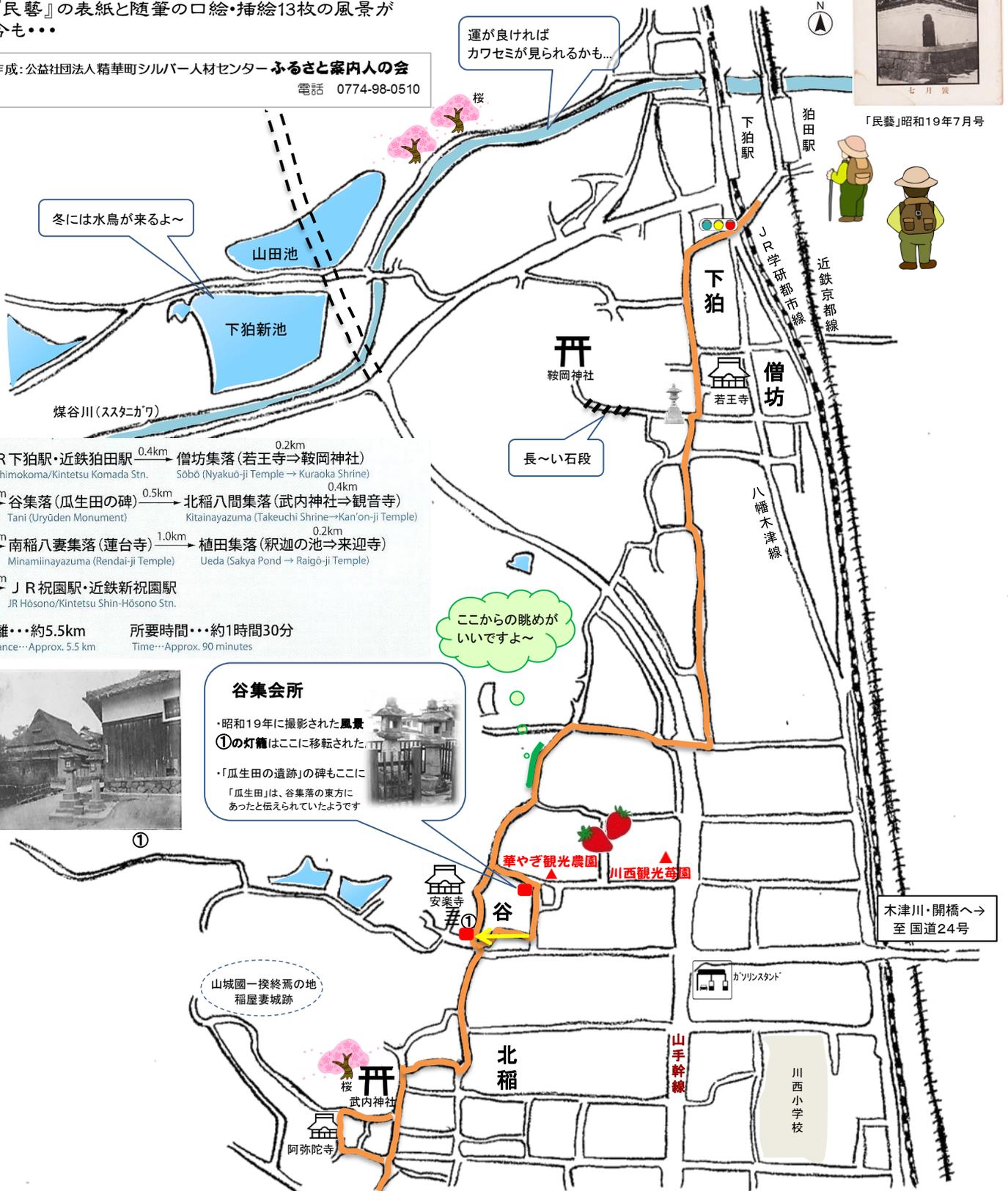
地図1



「民藝」昭和19年7月号

昭和19年7月1日発行『民藝』第6巻第7号に掲載されていた
河井寛次郎の随筆「部落の総体」
『民藝』の表紙と随筆の口絵・挿絵13枚の風景が
今も・・・

作成：公益社団法人精華町シルバー人材センター ふるさと案内人の会
電話 0774-98-0510



冬には水鳥が来るよ～

運が良ければ
カワセミが見られるかも...

煤谷川(スズカガリ)

鞍岡神社

若王寺

僧坊

長～い石段

ここからの眺めが
いいですよ～

谷集会所

- ・昭和19年に撮影された風景
- ①の灯笼はここに移転された。
- ・「瓜生田の遺跡」の碑もここに
- 「瓜生田」は、谷集落の東方にあったと伝えられていたようです



①

山城國一揆終焉の地
稲屋妻城跡

武内神社

北稲

山手幹線

川西小学校

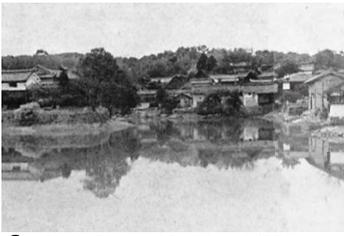
木津川・開橋へ→
至 国道24号

↓ 植田 釈迦の池 / 新祝園駅・祝園駅方面へ (地図2)

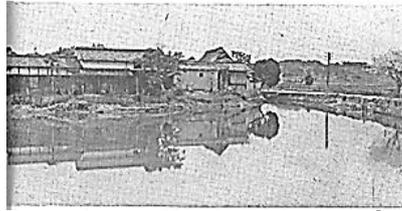
せいか検定100問 第3問「河井寛次郎がいちばん美しいといった村は？」・・・精華町ホームページより・・・ 文：『部落の総体(ウタイ)』より引用
(解答・解説) 土と炎の詩人とも呼ばれ、陶芸家として熱狂的なファンを持つ河井寛次郎。その寛次郎が民藝運動に加わっていたのはよく知られています。「民藝」の機関誌(昭和十九年七月号)で、「長い年月自分は村を見て歩いたが、今日此の處(トコ)に見た村の様に自分を有頂天にした村はさう澤山(オカシ)には無い。」「此の村位どの面を見ても、みにくい物の缺(か)けてみ(い)る村は、さう他に澤山は無い。すべては何の故に、かくも美しいのか不思議である。此の村の中に詰(つ)つてゐる、こんな箇々(トコ)の物の素晴らしさもさることながら、其(ノ)にも増して驚くのはこの部落全體(ウタイ)が壓倒的(アツク)に美しい事だ。」と、書いています。河井寛次郎にこうまでいわせた村は、現在の植田区なのです。(地図2)



「民藝」昭和19年7月号



④ 「4③『釈迦の池』昭和19年撮影」

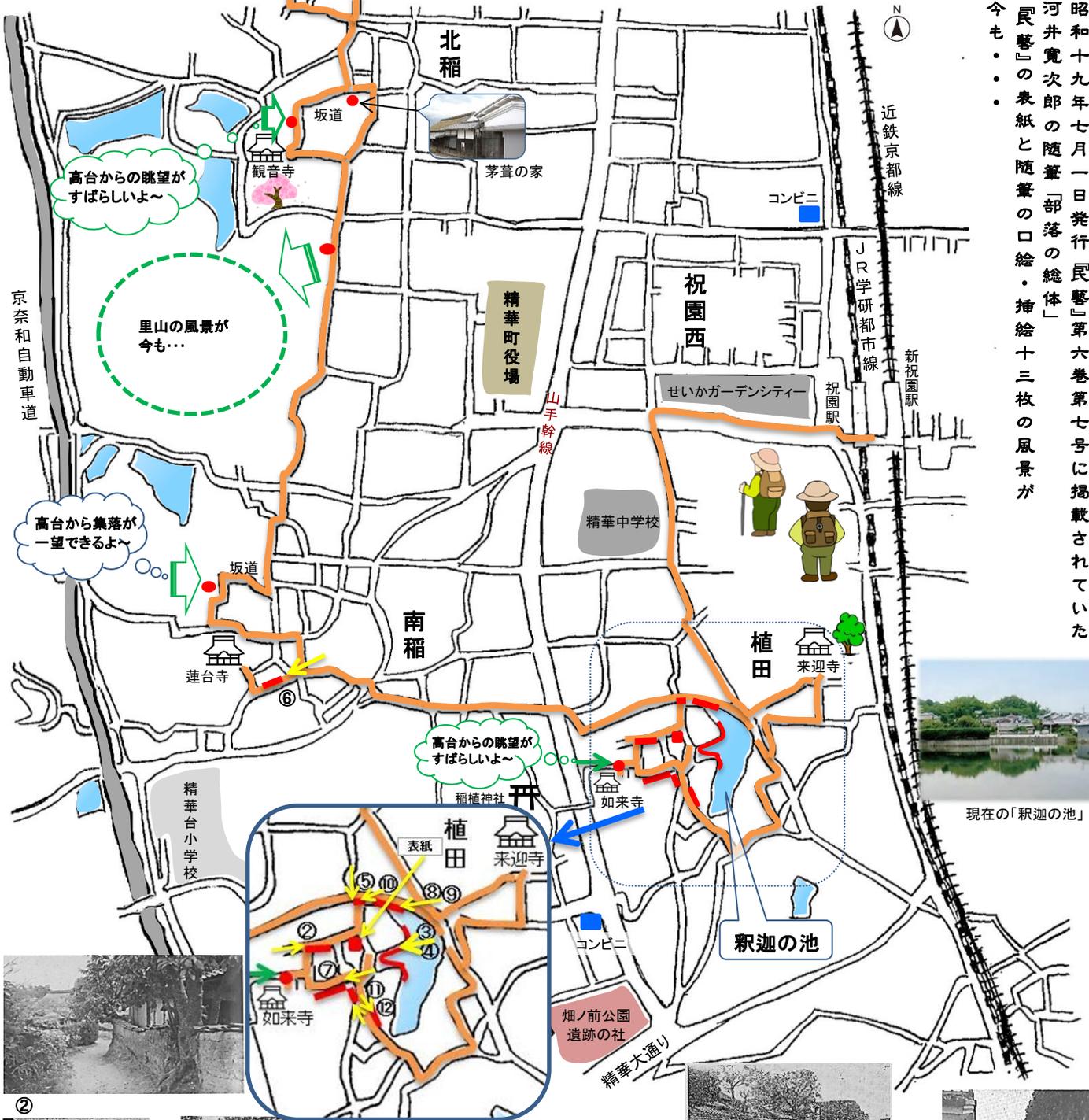


③



⑥

↑ 狛田駅・下狛田へ (地図1)



昭和十九年七月一日発行『民藝』第六巻第七号に掲載されていた
河井寛次郎の随筆「部落の総体」
『民藝』の表紙と随筆の口絵・挿絵十三枚の風景が
今も・・・



現在の「釈迦の池」



②



⑦



⑫



⑪



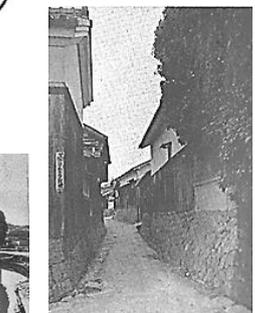
⑨



⑩



⑧



⑤